

# いきものみつけ

News.  
Vol.14

発行：いきものみつけファーム滋賀推進協議会  
電話：090-7966-2262 FAX：0748-68-0598

編集：事務局 竜王 住所：甲賀市土山町黒川  
E-mail:ryuoh-mtm@maia.eonet.ne.jp 平成27年7月20日



「冷たいね」「気持ちいいね」「なんか動くものがいたよ」話しながら歩く参加者さん。親のほうもけっこう楽しんでます。

## 今日は私も、川がきだよ

七月十二日の寺子屋は、久しぶりの川遊びをしました。近年、裏に川があっても川にはなかなか行くことがない子どもたちが、野洲川の上流(山内川)で川遊びをしました。

冷たい水を感じながら川を登るとやや深めで淵のような流れの水たまりもみつけ。ライフジャケットを着ているので、自分が水のように流れていく「川流れ」を味わう子どももいました。

安全面には、地域の方々の強力な監視体制と優しい見守りを受け安全に行う事ができました。ありがとうございました。

私たちの暮らしに欠かすことのできない川。飲料水にしたり、稲作などの農業への恩恵。

「どこから川の水は流れてくるんだろうね」「こんな生きものがいたよ」と川に入りながら、親子で人と川のつながりを感じたようです。

ただ、いつの時代も川の恵みと川の脅威は裏腹です。台風や大雨の時には、人や家も奪ってしまいう川です。身近な川ですが、川に入り、川と向き合う事で、命の大切さや自然のしくみに触れる機会となりました。



川にいた生きもの  
アジメドジョウ  
オウミヨシノボリ  
タカハヤ カワムツ  
カワニナ カジカガエル  
アマガエル サワガミ  
コオニヤンマの幼虫  
コヤマトシボの幼虫

### 化石も見つけたよ

約一七〇〇万年前には、この辺りは海だったそうです。今でも貴重な化石は川にあります。良く見れば、貝がついた石を見つけました。山内公民館横の六友館の化石の部屋にはもっとたくさん化石と説明があります。





# 昔と今の川の違い



夏休み企画として(短時間でしたが)、地元の野尻清さん(八六歳)に、「この辺りの川の話」を聞きました。



## ★昔いた生きもの

今と大きく違うのは、アユがたくさんいたこと。この時期なら、川に足をつけたら、ウヨウヨいた。今、絶滅危惧のアカザ、ギギ、ドンコ、ナマズ、カジカ、ヨシノボリ、メダカ、カワムツ等今より多くいた。

★どうして、川に生きものが減ったの？

・湖南省石部に頭首工(とうしゅこう)ができてから、琵琶湖からアユなどがここまで上がってこなくなった。

・近くにゴルフ場ができて、芝生管理のための農薬は土を汚した。

・人間の知恵と合理化で、田んぼにキツイ除草剤をまく時代があった。一気に生きものは減った。今は環境に配慮して農薬を減らしているが、すぐには生きものは戻ってこない。

## ★昔の川遊びの思い出

・川ではウナギがとれたから、仕掛けをして朝に見に行ったら、ウナギは家で食べた。

・夏は、午前中は寺で勉強した、午後からは川に行く、男女関係なく川に入る、川には淵があり、かなり深い場所もあった。そこから、「度胸試し」に飛び込む。川の見守りや指令は上級生。

上級生は怖かったけど、下級生を見なければならぬので、しっかりとっていた。そうやって、子ども時代から社会のルールを教えてもらった。人間の人格形成の場所でもあったんや。



## 石部頭首工って？

鈴鹿山系から流れてきた野洲川の水は、甲賀市水口町で、杉川と合流する。その後、守山、野洲の広大な地帯に流れゆく前に、旧甲賀、野洲両郡の郡境となる両側を山で挟まれた地点を通る。川的首根っこを抑えるように堰が設けられ、川の水を集め、田んぼに用水を送る施設。



国道1号線・石部付近から野洲川を見ると頭首工があります

## 【おじいさんの話を聞いて】

- ・おじいさんの話はわかりやすく、二人で話をされたので、おもしろく、大人が聞いても楽しかったです。
- ・おじいちゃんの話は、自然や遊びが昔と違う事を考えさせられます。
- ・親世代からするとちょうど祖父くらいのおじいさんからの話は、自分の祖父から聞いた話と同じであった。
- ・勉強になりました。

# 7月の田んぼのいきもの



毎月同じ場所でのいきもの観察、メンバーのお子さんはどこに生きものがたくさんいるか、秘密の地点を覚えた子どもたち。どんな生き物が見つかったかな？

## 田んぼ・水路で見つけないいきもの

タカハヤ カワムツ

ニシシマドジョウ

シマドジョウ アマガエル

コオイムシ

シオカラトンボ属の幼虫

アカハライモリ(成体・幼生)→6月に比べると

減っていたね

ミミズ類(フトミミズ科?)

タニシ類 カワニサ

